

1. 評価結果概要表

作成日 平成22年2月18日

【評価実施概要】

事業所番号	0177100328		
法人名	株式会社 山一山岸商店		
事業所名	グループホームかわせみ1・2		
所在地	〒079-0313 空知郡奈井江町字奈井江町161番地 (電話) 0125-65-5811		
評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成22年1月18日	評価確定日	平成22年2月18日

【情報提供票より】(平成21年11月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和 <input type="radio"/> 平成 <input checked="" type="radio"/> 17年 3月 25日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	16 人 常勤 14人, 非常勤 2人, 常勤換算 14.75人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	2階建ての 1~2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	15,000~20,000 円	
敷金	有() 円 <input checked="" type="radio"/> 無			
保証金の有無(入居一時金含む)	<input checked="" type="radio"/> 有(19,550 円) <input type="radio"/> 無	有りの場合償却の有無	有 / <input checked="" type="radio"/> 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,000 円	

(4) 利用者の概要(1月18日現在)

利用者人数	14名	男性	2名	女性	12名
要介護1	2名	要介護2	2名		
要介護3	6名	要介護4	3名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 82.33歳	最低	71歳	最高	98歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	奈井江町立国民健康保険病院・山中歯科医院
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は、法人代表が家族を介護した経験から、高齢者の居場所について考え、平成17年に他業種から福祉事業に参入した町唯一のグループホーム事業所である。高齢者が地域で、自然体で生きられることを大切にしてケアに取り組んでいる。事業所が立地しているのは閑静な住宅街だが、町役場、消防署、町立病院、高齢者施設、保育所などが近くにあり、共に連携を図りやすい環境にある。敷地も広く事業所裏の畑はベランダ伝いに行くこともできる。また、すぐ近くには川原があり、日常的に自然に触れることができる。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での課題については、全体会議の中で検討すると共に、運営推進会議に報告し全職員で取り組み改善している。地域との交流も徐々に広がり、さらに新たな交流も検討中である。課題であった運営推進会議は2ヶ月ごとに開催している。また、家族への報告についても家族アンケートをとり、なるべく希望に沿うよう努めている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員一人ひとりが自己評価に取り組み、ケアの振り返りとして活用し、管理者が取りまとめている。外部評価は、日ごろのケアの流れの中では気付きにくいことの気付きの機会として第三者の目線の大切さを認識し、ケアに活かすよう取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	利用者家族、民生委員、町職員、事業所職員等で2ヶ月ごとに運営推進会議を開催している。会議では、事業所行事や利用者の生活状況、外部評価結果等を報告している。人事面も含め感染症対策、災害対策の備蓄の検討、広報活動、情報提供、家族会の要望等を話し合い、意見を全体会議で協議し運営に反映している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	利用者一人ひとりの生活状況、身体状況は毎月家族に報告している。事業所での暮らしぶりや、行事報告等は季刊誌を発行して報告するとともに、家族の来訪時に意見や要望を聴く機会を作っている。内外の苦情窓口は事業所の掲示板、重要事項説明書に提示している。また、苦情時の対応手順も事業所内に掲示している。家族会からの意見、アンケート結果もケアに活かすよう取り組んでいる。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町の祭りや文化祭など地域の行事に参加し、散歩時に地域住民や利用者の知人と会話する機会を設けている。近隣にある保育所や高齢者施設との交流も進み、事業所祭りには地域住民も参加し交流を深めている。専門学校生のボランティア体験も受け入れ、事業所の機能を活かし、さらに高校との交流を計画している。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者が安全・安心・楽しく暮らせる環境と自己決定を尊重した支援を信頼関係を築きながら、社会との関係の中でその人らしく過ごすことを意識した理念となっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝のミーティングやユニット会議等で職員全体で理念を唱和し、日々のケアの中で困難を感じた時は理念に立ち返り、話し合いながらケアに取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町の行事である祭りや文化祭に参加したり、散歩時に地域住民と挨拶を交わし顔なじみとなっている。近隣の保育園の運動会に参加したり、事業所の祭りに地域住民も参加するなど交流に努めている。また、ボランティア体験として専門学校生を受け入れ、事業所の機能を地域に活かしている。さらに高校との交流を検討している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員一人ひとりが自己評価に取り組み、日々のケアに振り返る機会としている。また、外部評価の意義を理解し、第三者の目線を自己のケアの確認と気づきの機会として受け止めケアに活かすよう努めている。前回評価の改善事項にも取り組み、ケアに活かしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者家族代表、民生委員、町職員、事業所職員等で2ヶ月に一度運営推進会議を開催している。会議では、利用者の生活状況、事業所の行事報告、感染及び災害対策他評価結果等を話し合い、意見を運営に反映するよう取り組んでいる。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターが中心となり開催する介護事業関係者の会議に月1回参加し、地域の高齢者の暮らしについて話し合っている。課題解決や相談事は地域包括支援センターの協力を得ているが、町担当者と日常的に行き来する関係には至っていない。	○	介護保険の保険者である市町村は、地域福祉の推進役として課題や改善に共に取り組む立場にあるので町とは日常的に協力関係が得られる取り組みが期待される。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回利用者個々の暮らしぶりや身体状況、金銭関係の報告をしている。また、事業所の行事ごとに案内や報告、季節ごとにかかわせみ新聞を発行し事業所内での生活の様子や活動を伝えている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時に利用者の居室で希望を聞いたり、定期的にアンケートで意見を把握すると共に、家族会を開催し意見を反映するよう努めている。内外の苦情窓口も提示し、苦情がある場合は事業所全体で検討し、ケアに活かすよう努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員異動時の利用者の不安には、さりげなく利用者の思いに寄り添い、ダメージに配慮している。新入職員は時間をかけて徐々に利用者に関りを多くし、自然に受け入れられるよう取り組んでいる。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の介護経験を踏まえ、年間計画の中で外部研修、実践者研修を順次受講できる体制となっている。また、受講した職員から研修報告を受け、職員全体で学ぶ機会を設けている。今後、内部研修の充実を図るため、職員同士でテーマを決めて取り組むことを進めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、月1回地域の介護事業所関係者が集まる会議に参加し、情報交換等を行っている。しかし、職員が同業者と交流する機会は、管内の合同研修会や新任研修等が主となり個別的な交流までには至っていない。	○	他事業所職員同士の交流から学ぶことは多く、他事業所との相互訪問や勉強会、体験研修を通して実践的に学ぶ機会を設け、共にケアサービスの質の向上に取り組むことを期待したい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前面接として自宅を訪問し、本人の暮らしぶりや不安、家族の希望を聞き利用につなげている。また、利用開始前に数日間の利用体験や家族との来訪を勧めており、馴染みながら利用できるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者一人ひとりの能力や得意とすることを把握し、夏場の畑仕事、居室の寝具の整容、料理の下ごしらえ等を一緒に行っている。農業経験者も多く、野菜作りや調理の手順を学ぶこともあり、共に支え合う関係を作っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関りの中で利用者の思いや意向を捉え記録して、職員全体で共有し支援に努めている。意思疎通の難しい場合は筆談、表情などから読み取ったり、家族や関係者から情報を得て支援に活かしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の意見、要望を日々の生活の中で把握し、ケア会議で話し合い、介護支援専門員が計画書原案を家族に提示し、家族の意見、要望も盛り込み介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画のモニタリングを行い、3ヶ月ごとに見直し検討している。また、利用者の体調変化に応じて、その都度家族の同意を得て見直している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の要望に応じてドライブ、散歩、買い物など、利用者の満足を得るよう個々の思いに配慮して柔軟に対応している。また、外泊が困難な利用者には、家族と共に過ごすことができる家族宿泊室を設け、食事も提供し一緒に食事ができるよう配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の状況に応じて、かかりつけ医への受診支援を行い、緊急時に対応できる体制を整え、利用者の健康管理に活かしている。また、利用者の日々の身体状況の情報提供を医師に提示し、医師からの指導の下、支援に努めている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化に伴い、利用者や家族と話し合い、希望の把握と共有に努めている。医療機関と連携し、状況や病態に応じて家族の意向を確認しながら対応している。	○	重度化した場合や終末期のあり方についての指針や意思確認書を作成し、利用者、家族、医師、看護師、職員などチームとして対応し得る最大の支援体制の樹立を期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者のプライドに配慮し、一人ひとりの排泄パターンを把握しながら失禁時の関りをさりげなく行い、入浴時の羞恥心にも留意しながら支援している。職員間で情報が必要な場合には利用者のイニシャルで伝えている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	決められた日課はなく、会話の中から利用者一人ひとりの思いや希望を把握し、散歩や買い物、外作業など個々のペースを大切に支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の能力を把握し、食材の買い出しや調理の下ごしらえ、後片付けなどを大切に支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望に沿って、毎日入浴することができる。利用者自身が進んで入浴できるように、言葉かけや外出後などタイミングを配慮して支援している。時には希望に沿ってユニット相互に浴室を提供して、気分を変えて入浴が楽しみになるよう工夫している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴や日々の会話から好みや希望を把握し、畑作業、外出、ドライブ、家事など、力を活かすように支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	夏場は散歩や買い物、利用者が希望する場所や理美容室に行ったり、事業所裏の畑で野菜を作るなど、戸外へ出る機会を多くしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関、居室とも鍵をかけておらず、外出願望のある利用者には見守りで対応している。夜間のみ防犯上玄関は施錠している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署の協力の下、利用者と共に避難訓練を行っている。職員は、救命救急講習も受け緊急時の対応を学んでいる。災害時の食品、飲料水の備蓄を確保している。避難用テントについても検討している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの食事や水分の摂取量を毎日記録し、必要な量を確保している。3～4ヶ月ごとに町の栄養士に栄養バランスや摂取カロリーの指導を受け支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や廊下は広く、車椅子での交差に支障ない空間となっている。食堂を兼ねた居間もゆったりとしており、居間からベランダを歩いて通って畑に出られようになっている。壁には利用者と一緒につけた飾りを掲示し明るい雰囲気となっており、利用者は、日中居間で過ごすことが多い。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、使い慣れた家具や調度品、鏡台などを置き、家族の思い出の写真も飾るなど、なるべく今までの生活と同様の環境にすることに配慮し、過しやすい環境となるよう工夫している。		

※  は、重点項目。